

ビハール兵庫通信 SHOUJA vol.8

精

わたしを  
かえす  
ところ

舎

विहार

# 公開講座を振り返って

講師 高濱浩子（画家）

25歳の時、元町商店街の自宅  
で大地震を経験しました。一瞬に  
して土壁が崩れ私を覆い、母は  
大きな声で、窓から出て隣の店の  
屋根に飛び乗るよう叫びまし  
た。母と毛布に包まり「南無阿弥  
陀仏 南無阿弥陀仏」死にたくな  
いと初めて願いました。うっすら  
夜が明けると、どこからか煤が  
風に乗って渡って行きました。

それからひと月後、私は絵や  
音楽の仲間たちと「道ゆく人た  
ちと楽しくなれる何かをしよ

う」と話し、路上で

一輪の花を描きま  
した。すると後ろ

から作業着のおじ

さんが声をかけて

くれたのです。「なあ、おねえちゃ  
ん。わしな、絵とかわからんし美  
術館とか行ったことないし、よう  
わからんけど、でもな、そのおね  
えちゃんが描いた絵、家に持って  
帰りたいねん」と。瓦礫の街で、絵  
なんてお腹の足しにもならない  
のに。でもその時私は、絵は命の  
すぐそばにある気がしたのです。

今から四年前、大きな病院でト  
ラウマに配慮したケアプログラ  
ムのアートを担当することにな  
りました。今でも週一日、産科の

患者さんと共に絵を描いていま

す。このプログラムは治療を目的

としているわけではありません。

絵を上手く描く教室でもなく、患

者さんが安心して表現できる安

全な場であることを大事にして

います。大体的の方が絵は苦手と

おっしゃいますが、少しずつ自分

のペースで表現し、可視化された

自分の心を眺め、思ったことを話

してくれたりします。結果として

治療につながる事もあるようで

すが、私は患者さんに何も求めま

せん。ただ一緒にいるだけです。

このたびビハラの会の活動

を伺い、講演前に西田様やスタッ

フの皆様とお話させていただく

中で、改めて「ただともにいるこ

と」の大切さに気づきました。講演後開いたワークショップでは、皆さんの大きな笑い声やユニークな心に出会いました。人と人との間には様々な関係があります。が、ただともに大地の上で風を感じながら一緒に空を見上げているような、そのような者でありたいと改めて思う会でした。感謝合掌



公開講座で対談したビハール兵庫・西田代表と  
講師・高濱先生(2022.6.24)

## ビハール兵庫現地研修に参加して

高崎正英

2022年11月23日、ビハール兵庫が長島愛生園を訪問しての研修会に、教務所長はじめ初参加の人も含め26名の参加者を得て実施されました。

前回、園を訪問したのは、4年前の第3連区ビハール合同研修会でした。それ以前は約20年余り前から、5月の降誕会・11月の報恩講の準備を兼ねて清掃交流会を、布教団十方会と協力して行っていました。2019年春以降は新型

コロナ感染症等により自粛し、顔馴染みの方々の多くと再会できず、大変寂しい思いをしましたが、久しぶりに交流会を再開することができました。

当日はあいにくの雨で、収容棧橋・回春寮(収容所)・懲罰房舎である監房跡等は近くまで行って見学できませんでしたが、その分歴史博物館でゆっくり時間を取りハンセン病についてお話を伺い、「ハンセン病問題」と云われる、厳しい差別の



現実を肌で感じ取ることができました。

その後、万霊山の納骨堂に参拝しました。ここには、3600名余りのご遺骨が納められています。大半が故郷のお墓に分骨されていません。ここにも厳しい差別の現実があります。

そして、真宗会館に移動して真宗同朋会世話人代表 鈴木幹雄さんから、入所された時の様子や今日に至るまでの苦労話や楽しい思い出話を聞かせていただきました。質疑応答の時間もあり、大変有意義な交流会でした。

今日の愛生園では、入所者の平均年齢が88歳・在園者数100余名。「年々介護度が上

り園内交流も少なくなり寂しくなるばかりです。」と話されていたのを聞き、今後ビハーラ活動をどのようにすればいいか考える時だと強く感じました。



長島愛生園歴史館でハンセン病の由来や歴史について学ぶ参加者(2022.11.23)

### ビハーラ兵庫の主な活動

- ・高齢者施設でのボランティア
- ・邑久光明園、長島愛生園での交流会
- ・緩和医療や福祉分野の研修会の開催 など

### ビハーラ兵庫賛助会員

賛助会員とは、ビハーラ活動に興味があり、『私も何かできることはないだろうか』とおもわれる方に必見の制度です。賛助会員になりますと研修会等の活動のお知らせが届きます。まずは知るところから始めましょう。賛助会員に加入いただくだけでも、団体にとって大きな助けになります。

### 会 費

会員5千円・賛助会員3千円／年  
研修会等のご案内を送付します。  
ボランティア中の怪我などを補償する  
県ボランティア保険に登録します。